修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　前田　寛
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町1-17-1（NK第一ビル）☎03(5259)0631
振　替　00160－7－36337

財団法人全国修学旅行研究協会（全修協）は、日本の教育の振興に寄与することを目的とし、教育を熱愛し子供たちの幸福を希求する人々の支持を得て、修学旅行の改善向上を目指して、全国的規模で活動する文部省許可の教育研究財団である。

オホーツクの日の出（撮影：水口　保さん）

平成十一年 年頭の所感

文部大臣　有馬朗人

平成十一年の新春を迎え、心よりおよろこびを申し上げます。

昨年七月に文部大臣に就任してから六か月目を迎えました。この間、国会における議論や教育現場の視察などを通じて、国民の教育、学術、スポーツ、文化の充実に寄せる期待の大きさを実感し、決意を新たにしております。

私は、次代を担う子どもたちがたくましく心豊かに成長することは、二十一世紀を確固たるものとするための基本であると認識しております。そして、来るべき二十一世紀において、我が国が活力ある国家として発展し、科学技術創造立国、競争力を維持し、活力あふれる社会を実現するための大学改革と研究振興の一層の推進など、これまで教育改革の推進に努めてきたところでありますが、本年も、その着実な推進に努力してまいりたいと考えております。

（心の教育の充実）

今日、子どもたちを取り巻く状況が著しく変容する中で子どもたちに豊かな人間性を育てることが重要な課題となっています。私は、まず、地域社会や家庭における子どもたちが生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、美しいものや自然に感動する心をもった人間として成長してくれることを強く願っています。

このためには、家庭、学校、地域社会が一体となって力を結集しつつ、それぞれの分野で「心の教育」を充実させていくことが必要です。

まず、地域社会や家庭については、家庭の教育力の充実や地域全体で子育てを支援するための基盤整備が重要です。そこで、平成十四年度からの完全学校週五日制の実施に向けて、地域の子どもの活動を振興し、健全育成を図る体制を計画的に整備するため、平成十一年度から「地域で子どもを育てよう緊急3ヶ年戦略（全国子どもプラン）」に取り組みたいと考えております。

学校については、道徳教育やカウンセリング活動等を一層充実してまいります。また、暴力行為やいじめの状況は依然として深刻であり、学校はその防止に努力するとともに、こうした問題行動が起きたときには毅然として対応し、関係機関とも積極的に連携を図っていくよう促してまいります。教育上の大きな課題となっている不登校問題についても、授業がわかりやすく子どもたちが進んで来たいと思えるような楽しい学校づくりをめざすとともに、学校・家庭・地域が連携して子どもたちを育てていくとの観点に立って取組を進めてまいります。

（中高一貫教育の導入など教育制度の改革・弾力化）

平成十一年度から中高一貫教育が選択的に導入できることとなりました。私は、中高一貫教育は、中等教育の一層の多様化を促進し、生徒一人一人の個性をより重視した教育を実現するものとして、大変有意義であると考えており、各地方公共団体等における取組を支援し、中高一貫教育の実施を推進してまいりたいと考えております。

また、併せて多様な生徒の実態に対応し一人一人の個性を最大限に伸長させる視点に立って、総合学科や単位制高校の設置、高等学校入学者選抜の改善等、様々な施策を進めてまいります。

（教育内容の改善）

これからの初等中等教育においては、完全学校週五日制の下、ゆとりの中で、子どもたちが基礎基本をしっかりと身に付けるとともに、自ら課題を見つけ、自ら考え、問題を解決していく力を養うことが重要であると考えます。このような考え方に基づき、昨年十二月、教育内容の厳選、「総合的な学習の時間」の創設などを盛り込んだ新しい幼稚園、小学校及び中学校の学習指導要領等を告示しました。また、引き続き、高等学校と盲学校、聾学校及び養護学校の新しい学習指導要領についても、平成十年度内に告示することとしております。

これらの新しい学習指導要領等は、幼稚園は平成十二年度から、小学校及び中学校は平成十四年度から、高等学校は平成十五年度から、盲学校、聾学校及び養護学校については各学校段階に準じて実施することとしていますが、その趣旨の実現のため、教育関係者をはじめ広く国民の理解と協力が得られるよう周知に努めるとともに、円滑な実施に向けての諸条件の整備に取り組んでまいります。

以上、文教行政に対する私の基本的な考えを述べました。国民各位の一層の御理解と御協力をお願いします。

修学旅行の抱える今日的課題

財団法人　全国修学旅行研究協会
理事長　谷合良治

平成十一年の新春を迎え、心から御祝詞を申しあげます。

昨年は、生きる力や総合学習の時間等について様々に論議されました。十一月の学習指導要領案は、それらの論議に一定の方向性と具体性を与え、各界のヒアリングを経て十二月告示となりました。その柱は、

一　豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること

二　自ら学び自ら考える力を育成すること

三　ゆとりある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること

四　各学校の創意工夫を生かし特色ある教育、特色ある学校づくりを進めること

となっています。まさに二十一世紀に向けての学校教育の方向を示すものと受けとめました。

修学旅行を教育的・基本的に位置付ける特別活動は、その目標として「社会の一員としての自覚を深めること」を取り入れ、ボランティア活動を充実させるため、生徒会活動と学校行事に明示しました。そして修学旅行は引き続き「旅行・集団宿泊的行事」として位置づけています。このことをどう受け止めるかがこれからの大きな課題であります。

現在の修学旅行が総合的な活動として組み立てられ、体験を取り入れ、生徒の主体的な活動として展開されているとの見方もあります。しかし、現実に社会の急激な変化・成熟とその将来を考えるとき、それに対処する生き方や生きる力をどう育てるか、そのために修学旅行はどうあればよいかということは、今まで以上に追究される必要があります。

全修協は、昨年度から新たに「地球と人にやさしい修学旅行」を提唱し、その一つとして「修学旅行における環境学習への取組みの研究・実践を助成する」ことを全国に呼びかけました。これに全国から九校の応募がありました。今後、こうした実践紹介等を通じて、また総合学習の時間の課題である「環境」との関連において「地球と人にやさしい修学旅行」の一層の推進を図りたいと考えます。この他、学校週五日制における連合体輸送。国際理解教育と海外研修・海外修学旅行、航空機利用の枠組み等が研究課題となると考えます。また世界文化遺産等も視野に入れながら課題提起をしていきたいと考えます。

修学旅行の理論的・実践的な研究会として、今年度全国修学旅行研究大会は十六回、修学旅行セミナー十四回、地区研究会例えば関東地区修学旅行研究発表会は三十五回を迎えます。また、四十年余の歴史を持つ全国教職員研修旅行は資質能力を高める教職員研修の一端を担うものであり、修学旅行とも密接に関連しております。これらの積み重ねの上にさらに教育改革の方向の中で新しい視点を設定し、学校教育との一体的な推進に努力して参ります。

年頭にあたり、教育研究財団としての認識を新たにし一層の努力をして参ります。関係諸機関の御支援とご理解をお願い申し上げ、ご挨拶といたします。

風紋

期待を担った寅年が成果をあげずに去り、代わって二十世紀最後の締めくくりの年、一九九九年卯年が登板した。

まずは、おめでとうございます。

▼今年は、干支では卯の年、卯は漢和辞典によると、「十二支の第四位。方角では東。時刻は、明け六つ（午前六時）」とある。▼昨今、安いパック旅行が出回っているなか、修学旅行費が高いとの批判が昨年来多く出された。費用は安いに越したことはない。しかし、安いだけで良いのだろうか。忘れていけないことは、どの旅行でも安全性を重視するが、とりわけ修学旅行ではより確実・安全性を重視している。何が安くて、何が高いかをじっくり考えてみる必要があろう。▼昨年末、古都奈良の文化財が世界文化遺産に登録された。大変結構なことである。古いもの全部良いとは限らないが、子供たちが本物と接することにより、豊かな感性が磨かれ、引いては真偽眼も培われるのではなかろうか。そして自然との共存をどう計るべきかを考えるよい機会になることだろう。▼国際宇宙基地建設も、各国の強力で、着々と成果を挙げている。これからは宇宙規模の時代である。▼童謡「うさぎ　うさぎ　なに見てはねる・・・」のウサギさんに、「二十世紀の締めくくりとして、明るく安全な世の中になるよう、有効・着実に跳ねて欲しい。」と願わずには、いられない。（水）

教育の窓

新学習指導要領から

東京農業大学教授
前文部省初等中等教育局主任視学官
渡部邦雄

新学習指導要領（中学校）「総則」について、前回に続き述べる。

一　「第5　授業時数等の取扱い」

各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間の授業は、年間35週以上にわたって行うが、各教科等（学級活動を除く）や学習活動の特質に応じ効果的な場合には、これらの授業を特定の期間に行うことができると改訂された。

さらに、各教科等のそれぞれの授業の一単位時間はこれまでは「五十分を常例」とされていたものが、「各学校において、各教科等の年間授業時数を確保しつつ、生徒の発達段階及び各教科等や学習活動の特質を考慮して適切に定める」となり、「五十分を常例」とする表現がなくなった。

周知のように今次の改訂の「各学校の創意工夫を生かした、特色ある教育、特色ある学校づくり」をうけて、一単位時間をはじめ授業時数の取扱いの弾力化が進められ、各学校の創意工夫が一層生かされることになったのである。

二　「第6　指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」

概ね現行と同様であるが、新たに語句を挿入したり、事項を加えたりして、文言を整理している。すなわち、

○　各教科等の指導に関しては、体験的な学習に加えて「問題解決的な学習」の重視が入った。

知識・理解だけに止まらず、学び方、調べ方を学び、学ぶ楽しさ、分かる喜びなどを実感できる学習の展開を期待しているのである。

また、「個別指導、グループ別指導」「教師の協力的な指導」などの指導方法や「指導体制」が示された。

障害のある生徒などについては、「指導内容や指導方法を工夫」することや、「特殊学級又は通級による指導」については、教師間の連携に努め、効果的な指導を行う」が記されている。

更に、情報活用能力の育成のために「生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用」できるよう「学習活動の充実」を求めている。

○　生徒指導では、教師と生徒の「信頼関係」を育てることや「生徒理解を深め」ることが加わった。最近の生徒指導上の諸問題を考えたとき、生徒のパーソナリティーの変容、問題行動の多様さ、短絡的な行動など、その原因・背景などから、豊かな人間関係の形成や深い生徒理解などが求められるようになったためである。

○　「ガイダンスの機能の充実」が、新たに示された。

すなわち「(5) 生徒が学校や学級での生活によりよく適応するとともに、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、ガイダンスの機能の充実を図ること」という内容である。

これは、不登校、いじめ、暴力行為などの増加、目的意識の欠如、刹那的な生き方などの生徒の実態をはじめ、選択履修幅の拡大、個性の伸長などの教育改革の方向性などが背景にある。

ガイダンスの機能には様々な考え方があるが、ここでは、学習や進路の適切な選択、学校生活への適応、円滑な人間関係の形成などを図っていく場合に生かされる機能ととらえたい。

○　学校図書館に関しては、「生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動」を充実し、受け身から、自ら学ぶ学習への転換を目指している。

○　「開かれた学校づくり」のために、家庭や地域の「人々の協力を得る」ことや「中学校間や小学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校」などとの連携や交流、「障害のある幼児児童生徒や高齢者などとの交流の機械を設ける」など、現行の「連携や交流」について、より具体的に示し、一層の充実を図っている。

修学旅行における環境学習研究助成指定校審査結果

全国公立・私立の少・中・高等学校を対象に、修学旅行における環境学習研究・実践校を募集し、その中から研究助成校を指定することを呼び掛けたところ、以下の九校の応募があった。審査委員会は十二月十八日㈮午前十時～十二時　東京・市ヶ谷の私学会館で開催された。以下その結果をお知らせする。

・審査委員

委員長　成田　國英氏
東京家政学院大学教授
委員　安藤　駿英氏
全国連合小学校長会長
委員　安齋　省一氏
全日本中学校長会長
委員　亀岡　良平氏
全国高等学校長協会
就対専門委員
委員　鴻田　好通
全国修学旅行研究協会
理事・総局長

・応募校数

小学校　一校
中学校　八校
高等学校　なし

・審査経過概要

応募申込書を中心に、添付された資料も参考に詳細に検討した結果、計画・内容・実践・結果等、今回の研究助成に相当するとの評価を得た次の二校について研究助成指定校として、三〇万円を助成する。学校名及び、研究実践の概要は次のようである。

《小学校》

岐阜県美濃加茂市立古井小学校　井戸　英彦校長

・研究・実践の主題

修学旅行を子供達でつくりあげ、地球にやさしい環境を考えた活動の展開

・研究・実践の分野

歴史文化遺産学習

・修学旅行期日

平成十年六月十九日㈮～六月二十日㈯

・修学旅行先

奈良、京都

《中学校》

東京都小金井市立第二中学校　平林　忠校長

・研究・実践の主題

エネルギー・環境問題の視点を育む修学旅行
―電気エネルギーと自然をテーマにした体験学習―

・研究・実践の分野

環境問題学習

・生活文化体験学習

・修学旅行期日

平成十年五月二四日㈰～五月二六日㈫

・修学旅行先

福島県　東京電力水力・火力・原子力各発電所
会津若松、喜多方、裏磐梯

なおこの他の応募校名とその研究実践の概要は以下のようになっている。

○三重県阿山郡伊賀町立柘植中学校　稲森　捷吾校長

・研究・実践の主題

沖縄の自然や気候風土が育てた生活や文化を聞き取りしたり、体験したりして自然と人間の共生について考える

○群馬県桐生市立昭和中学校　小島英一郎校長

・研究・実践の主題

東北地方の豊かな自然・文化に接することにより、自然保護の重要さを認識すると同時に、自然・文化を守り育てていく心情を育む

○岐阜県中津川市立第二中学校　福士　功校長

・研究・実践の主題

豊島産業廃棄物の学習・見学を行い、今日の日本社会の現状や自分たちの生活を考える

○千葉県柏市立土中学校　高木　久臣校長

・研究・実践の主題

修学旅行で訪れる「京都」を従来通りの「寺社仏閣巡り」だけで終らせるのではなく、「環境教育」の視点から見ることによって、身の回りの環境に目を向ける機会作りとする（平成九年度）

○米沢市立第一中学校　関戸　勇雄校長

・研究・実践の主題

体験を通して、自然や社会と自分のかかわりを考え、たくましく生きる力を身につける修学旅行はどうあればよいか

○神奈川県座間市立座間中学校　尾山　真幸校長

・研究・実践の主題

環境問題を意識した修学旅行の取り組み「地球温暖化防止京都会議」の成果を生かした修学旅行を「京都を明日につなげよう」～エコ修学旅行をめざして～

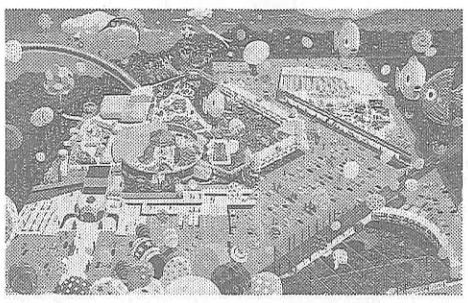
○奈良市立富雄中学校　篠原　弘州校長

・研究・実践の主題

スキーを通じて自然を身近に感じると共に、自然の中で体験学習を深める（計画）

今回の「修学旅行における環境学習研究・実践校募集」は全修協としては初めての事業であり、全国の学校に周知することができなかった。特に高等学校について不十分であった。また指定校数が少ないこと等もあって、応募状況に不安もあったが、環境問題への関心、学校における環境教育の推進等の一般的情勢と相俟って、修学旅行との接点から環境学習を考える、逆に環境学習から修学旅行を考えるという新しい視点が理解され、実践が広まって行くとの感触が得られた。今後、上記の研究実践の内容の紹介をしていく中で、「地球と人にやさしい修学旅行」として、一層の推進を図っていきたい。

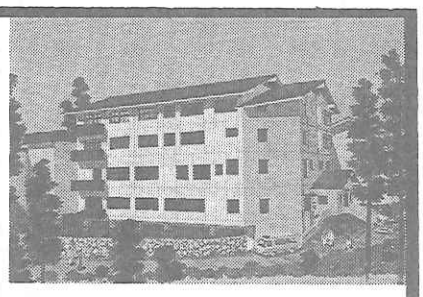
古都金沢の新名所 ルネスかなざわ



■リゾートロッジ（1泊2食）
小・中学生 ……7,500円より
高校生以上 ……8,500円より
最大500名様まで宿泊可
（一校一館に安心して宿泊できます）
■ルネスかなざわ入場料金（3時間コース）
小・中学生 …… 700円
高校生以上 ……1700円
■施設案内
●9つの温水プール●研修室●サウナ
●天然温泉（岩露天風呂付）●ボウリング
●和・洋食、中華、焼肉レストランなど

施設についてのお問い合わせは　ルネスかなざわ　〒920-0005 石川県金沢市高柳町1-70-1
TEL0762-51-7000　FAX0762-51-6877

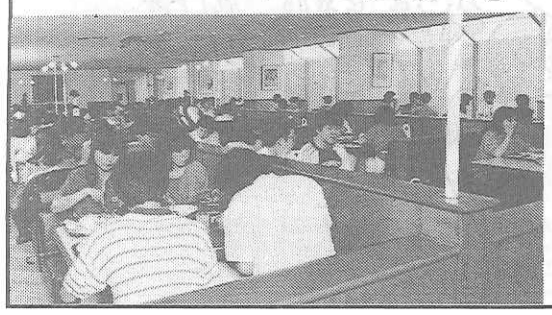
座禅体験で
〝心、リフレッシュ!!〟
清潔、安全、快適、
安心のお宿



本館	17室	194帖	120人
比叡	28室	260帖	200人
北嶺	15室	160帖	130人
計	60室	614帖	450人

〈国際観光旅館〉
比叡山　延暦寺会館
TEL　0775－78－0047・0554
TELEX　5464－917
FAX　0775－79－5053

――修学旅行の楽しいお食事――
箱根彫刻の森美術館内
レストラン コンポート



◇500名様迄、ご利用いただけます。
◇当レストランは、彫刻の森美術館内の施設ですので、入館を必要とします。
〒250-0407
神奈川県足柄下郡箱根町二の平1121
☎0460(2)2221（予約センター）

古代文化邪馬台国ルート
壱岐へ…

魏志倭人伝に一支国の名で記されている。
古代大陸交流の要としてクニを構えていた壱岐。
イルカとの共生をはじめ自然とのふれ合いが出来る絶好の教育旅行の場としてお薦めします。
壱岐教育旅行受入協議会事務局
九州郵船
TEL（092）281-0831
FAX（092）281-0444
URL http://www.mapion.co.jp